

## 平成23年度 第1回安曇野市環境審議会 会議概要

- 1 審議会名 平成23年度 第1回 安曇野市環境審議会
- 2 日 時 平成23年4月22日(金) 午後2時00分から午後5時15分まで
- 3 会 場 穂高総合支所 3階 第3会議室
- 4 出席者 環境審議会委員13名 環境基本計画推進会議会長、副会長 2名
- 5 市側出席者 小倉部長・小松課長・中村課長・大向補佐・久保田係長・丸山係長  
山下副主幹・塩原主査・堀主査(以上市民環境部)  
岩岡課長・松岡補佐(以上三郷支所地域支援課) 山田課長・大竹係長・米倉主査(以上農政課)
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1人 記者 -
- 8 会議概要作成年月日 平成23年5月6日

### 協 議 事 項 等

#### 【進行表】

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 協議・審議事項
  - (1) 平成22年度 環境基本計画年次報告について
  - (2) 三郷地区畜産臭気対策について
  - (3) 平成23年度 一般廃棄物処理実施計画について
  - (4) 一般廃棄物処理基本計画について
  - (5) その他
4. 閉 会

#### 【議 事】

- (1) 平成22年度 環境基本計画年次報告について  
事務局から説明。

#### 質疑

委 員：今回の東日本大震災を受け、新しいエネルギーという観点から、ペレットストーブの普及と、合わせてその燃料として、間伐材、剪定木の活用を図ったらどうか。

推進委：剪定木を利用するということになると、様々なクリアしなくてはいけない課題がある。間伐材の活用等、森林の保全については、今年は国際森林年でもあるが、行動計画の中の「森づくりを推進する」PJでは、森づくり委員会を今年度立ち上げ、森林の保全はもちろんのこと、間伐材の活用についても検討していきたい。また、3年後には基本方針を策定することになっている。

事務局：安曇野市では、現在ペレットストーブを購入する場合5万円を補助している。間伐材を燃料として利用しているペレットストーブは、燃やすことによってCO<sub>2</sub>を排出するが、間伐材となる前は、CO<sub>2</sub>を吸収しているため、プラス、マイナスで0という考え方に基づく。

委 員：「豊かな地下水を保全する」で、地下水保全条例の策定が1年延びた理由は何か

事務局：昨年7月、地下水を利用している事業者と、関係する国・県・市の各部署、市民からなる地下水保全研究委員会が発足。昨年度は、地下水保全に対する理解を深める1年であった。本年度は、地下水保全に対する具体案についての議論に入る。地下水保全の中心となるのは、涵養事業だが、その為には涵養田の借用等予算も伴ってくる。そのために事業者には何らかの負担等をお願いする場面も出てくる。よって、1年延びた理由は、きちんとした議論が必要となるからである。

委 員：全体をとおして、このような取組みは大変良いが、全てを完璧にこなすことは難しい。よって、各重点PJを推進するうえで、問題点をきちんと整理して明らかにしておいてほしい。

事務局：了解した。

委 員：今回の東日本大震災を受け、原発の問題については、他人事ではなく、日本全体がこれから考えていかなければいけない問題と考える。安曇野市でもぜひ、真摯に受け止め考えていってほしい。

推進委：非常に重要なご意見。真摯にうけとめ、重点プロジェクトの中で、今後、臨機応変に対応していきたい。

協 議 事 項 等

(2) 三郷地区畜産臭気対策について

事務局から経過説明

三郷支所地域支援課から状況報告（苦情の状況、臭気モニター結果等）

農政からこれまでの改善へ向けた対策・取組み

質疑

委 員：このような様々な対策が行われていく事により、どの程度臭気が減るのか、また今後の見通しは。

地域支援課：どのくらいで臭気が減るかというのは難しい質問である。畜産農家が現在のような経営状況のなかで改善計画にどのくらい協力いただけるかが鍵になる。そうした中でどのくらい臭気が減らせるかである。但し、今の頭数を半分にしたところで難しい。H22は臭気モニターを、農政の方で20軒、地域支援課の方で8軒の方をお願いしたが、調査日数123日のうち、臭気を感じなかった日は13日しかない（89.4%）。臭気の強さは、1から5段階に分かれているが、ほとんどが3～5段階にあてはまる（94%）。そのような現状の中、畜産農家が、日々糞尿処理を適切に行い、劇的に臭気が改善されるというのは大変難しい。畜産農家がどの程度、どの範囲まで協力できるのか一緒になって考えることが大事である。

委 員：配布された資料のなかでは、肉牛の方はなんとか対応できている。乳牛と養豚が問題ということで、具体的に、臭気の原因をどのように減らし対処して行けばよいか。養豚そのものをなくすわけにはいかない。さりとてこのままではいけないという中で、やはり、何か見通しがほしい。

農 政：三郷の野沢地区においては、スラリーインジェクターの導入により、かなり臭気の軽減がはかられた。黒沢川流域には、大きな畜産農家が3戸あるが、1戸については野積み問題等あったが現在は解消されてきている。この3戸については、順番に改善をはかっていけるよう今後考えていきたい。昨日の会議において、養豚農家については理解をいただき、5月から専門の指導者が入り、現状把握のための調査、改善計画をたてることが決まった。徐々に進めていくのもうしばらくお待ちいただきたい。

会 長：我々は畜産農家と共存していくことを基本に考えなくてはならない。しかし一方で住民の苦情に対し、行政が一生懸命取り組んでいるにもかかわらず、畜産農家の考え方、どういう気持ちでおられるかがちっとも伝わってこない。徐々に改善に向かっていっているとは思いますが、豊科の新田地区まで臭気がくる。畜産農家の近隣の方々の悩みは計り知れないものがある。これからは畜産農家の方々ももっとも改善へ向けた努力をしていただきたい。

委 員：先ほど「改善の見通し」という意見があったが、言い換えれば、住民は希望を持ちたいということである。全体としては、数年前より良くなるはなっているとは思いますが、見通しがすぐに出ないということであれば、今やっていることが、効果があるかないかの検証をもっとやってほしい。特にインジェクターは効果が出ている。先ほど農政から話があった、次に養豚農家の改善に取り組むという姿勢、このことが非常に大事である。今後も他の農家の臭気問題に順次取り組んでいってもらい、進捗管理、評価をしっかりとやれば、徐々に改善されていることが明らかになると思う。また、評価の仕方のひとつとして現在おこなわれているモニタリングがある。ぜひ継続して定点観測、モニタリングをしてほしい。同じ感覚でやるのが大事であり、続けることにより、地域住民の感覚に近い結果が得られると思うし、正しい評価につながるはずである。先ほどの説明の中で庁内会議を発展させたいという話があったが、本当に機能しているのか。連絡はとってはいるだろうが、庁内会議がこの臭気問題の核となるべき。今は農政側におんぶにだっこしてしまって、確かに改善の取組みの主体となるという点では仕方がないが、公害、人権問題という観点から言えば、庁内会議が中心となって旗を振るべきである。そして見通しはどうか、進捗はどうかと管理し、まわして行ってほしい。

委 員：私はこの臭気問題のメンバーとしてやってきているので、3月4日に開催された臭気対策研究会議の議事録を、今回の審議会場で提示してほしい。そうすれば、今あがってきている問題のことがすべて出ている。同じ問題を繰り返し論議しなくても済むし、話をもっと前に進み、少し希望がみえて

## 協 議 事 項 等

くる。問題なのはその希望の光がどのくらいかということであり、先ほど会長が、畜産農家の取り組み姿勢が見えてこないと言ったが、この会議には農家も出てきているので、農家も参加した話をきちんとしてもらえたはず。そうすればもっとコミュニケーションも生まれてくるのではないか。

### (3) 平成23年度 一般廃棄物処理実施計画について

事務局から説明

質疑

委 員：アパートなどの集合住宅のごみは、産業廃棄物なのか？分別があいまいではないか？

事務局：一般廃棄物。事業系の一般廃棄物に分類されるが、事業系のごみについては実態の把握からはじめなければいけない。出し方の指導などをしなければいけない。

委 員：ごみの袋を見えないように新聞紙で覆って出すのはいけない。指導をお願いしたい。

委 員：だめごみ注意シールは効果がないのではないか。一年間環境部長をやってみたが、そう思う。

委 員：絶対に名前を書かなければいけないということを周知してほしい。業者がもっていないものについては、集積所の管理人が、名前のわかるものは本人に返すが、ほとんど名前が書かれていない。記入することを絶対条件にしてもらえないか。現場は非常に大変な思いをしている。

事務局：中のごみを行政が確認すると、プライバシーの問題になってくる。

委 員：マナーが向上するならば、いろんな対策をとってほしい。

### (4) 一般廃棄物処理基本計画策定について

事務局から説明

委 員：これだけの指摘事項をよく修正していただいた。

事務局：まだ、本日の案が決定ではなく、これからパブリックコメントなどで、広くご意見を頂戴していく。